

研究会当日に使用した資料を抜粋、
編集しております。

— 国家主導かつ半制度的な
「中国新興国ネクサス」の強化? —
Making Sense of “One Belt, One Road”:
Facilitating state-led and half-institutionalized nexus
with emerging economies?

東京大学社会科学研究所
伊藤亜聖
asei@iss.u-tokyo.ac.jp

1

拙著の結論と展望

- 結論

中国国内での産業集積間の競争
地方政府が重要な役割
有力な産業集積からの取引範囲が空間的に拡張
⇒ 「世界の工場」は
終わりにくいメカニズム持つ

- 展望

「世界の工場 version 1.0」から、
(= 沿海立地、外資主導、加工貿易、人海戦術)
「世界の工場 version 2.0」へ?
(= 立地拡張、地場民営企業主導、内需と一般輸出、生産効
率改善と付加価値の向上)

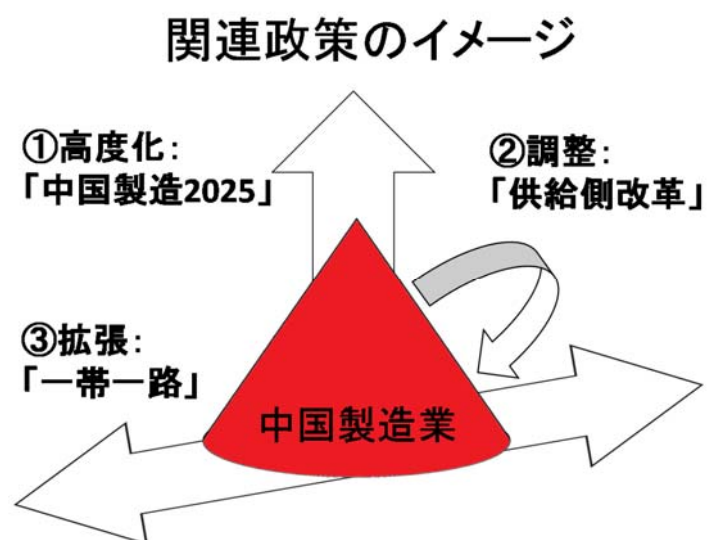
2

- ある空間経済学の先生のコメント
「沿海から内陸へ、極めて当たり前のことが起きている」
- 北京大学のある先生のコメント
「中国の労働集約的産業はアフリカに移転する」
- シンクタンクの方のコメント
「メディアの趣旨は日系企業にとっての伸び代のあるところ」

3

中国経済の3つの変化軸

- ①高度化:「中国製造2025」
新興産業重視
インターネットとの融合
- ②調整:「供給側改革」
私営企業、イノベーション重視
過剰生産淘汰
産業立地の調整
- ③拡張:「一帯一路の展望と行動」
周辺国とのコネクティビティ向上
インフラ・設備輸出
特に新興国との関係強化

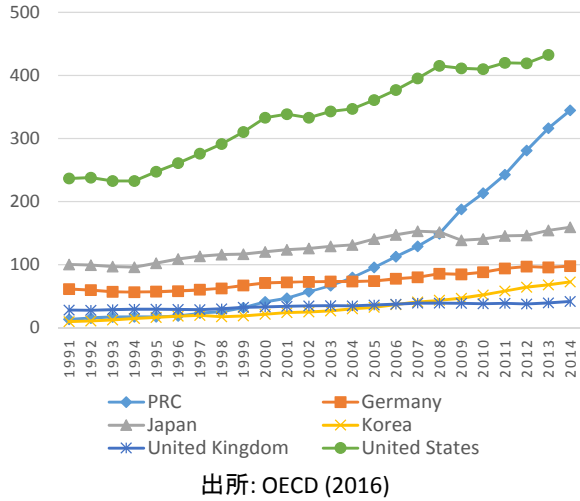


4

①高度化

- 研究開発支出は右肩上がり
『国家中長期科学技術計画』にて、先進国並みのR&D投資を実現するため、「R&D投資の伸び率>GDP成長率」を明記
中国国内での特許出願の一般化
特徴としては沿海部、民間資金・民間企業による研究開発の進展

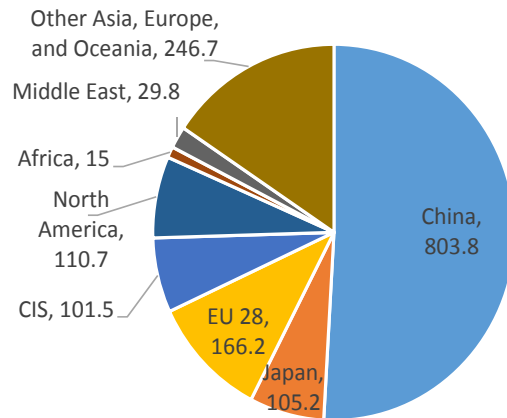
図 主要国の研究開発支出額の推移
(単位: 10億ドル)



②構造調整

- 悪いニュース
鉄鋼の「過剰生産能力」問題
「供給側改革」の一環として、劣位生産能力の削減と、高品質生産能力の増強が併記
結果、河北省の総生産能力が拡充
- 良いニュース
2016年第2四半期(4-6月)の成長率は6.7%、このうち消費の貢献度が4.9%、投資が2.5%
消費・内需主導の成長パターンへの転換、サービス業化といった転換は以外に進んでいるかもしれない

図 世界の粗鋼生産量の内訳
(2015年、100万トン)



出所: World Steel Association, "Crude Steel Production Data 2015".

③ 拡張

- 背景としての「資本過剰国・中国」の登場
「世界の工場」として巨額の貿易黒字⇒巨額の外貨準備(ドル)
主に米国債での運用(低利率)
より運用利回りの高い直接投資や証券投資へと対外資産を振り分けていくことは、中国にとって中長期的に重要な課題

7

一帯一路構想の登場 表 習近平体制下における「一帯一路」動向

2013年	9月7日	習近平国家主席、 <u>カザフスタンのナザルバエフ大学</u> での講演にて「新シルクロード経済ベルト」構想を提起。 <u>地域協力、鉄道建設、貿易円滑化、通貨流通文化面の交流、以上5点の促進に言及。</u>
	10月3日	習近平国家主席、インドネシア国会での演説にて「21世紀海上シルクロード」とアジアインフラ投資銀行(AIIB)を提起。
	10月24日	習近平国家主席、周辺外交活動座談会にて「一帯一路」とAIIB設立推進に言及。
2014年	6月5日	習近平国家主席、中国・アラブ諸国協力フォーラム閣僚級会議開幕式にて「一帯一路」に言及。 <u>内政不干渉、相互協力、エネルギー協力、インフラ建設と貿易投資の促進、ハイテク分野での協力を提起。</u>
	12月29日	シルクロード基金を400億ドルで設立。
2015年	2月1日	「一帯一路建設工作会議」が設置。組長に張高麗、副組長に汪洋、楊晶、楊洁篪。
	3月28日	<u>国家発展改革委員会・外交部・商務部が共同で「シルクロード経済ベルトと21世紀海上シルクロードの共同建設を推進する展望と行動」を公表。</u>
	4月2日	習主席、パキスタン訪問。「中国・パキスタン経済回廊」計画への450億ドル拠出を発表。
	6月29日	AIIB設立協定の署名式開催、50カ国の代表が署名。

出所:『週刊東洋経済』2015年8月22日号記事「中国は世界をどう変えるか」(64-67頁)、『習近平 国政運営を語る』、中国メディア報道より作成。

8

演説の例

- 「「「一带一路」は互惠、Win-Winの道であり、各国の経済をいっそう緊密に結びつけ、各国のインフラ建設と体制・仕組みの刷新を促し、新たな経済成長点を作り出し、雇用拡大を促進し、各国経済の内生的原動力とリスク抵抗力を強化する」
- 「シルクロード精神の発揚は、道の選択を尊重することだ。「履物は足に合いさえすれば必ずしも同じでなくてよい。治国政策は民に有利でさえあれば必ずしも同じでなくてよい」という。(中略)われわれは異なる文化的伝統、歴史的境遇、現実的国情を持つ国々が同じ発展モデルを採用することは求められない」

(2014年6月5日の中国アラブ諸国協力フォーラムでの習近平演説。『習近平 国政運営を語る』、「シルクロード精神を発揚し中国・アラブ諸国の協力を深化する」(pp.347-355)より)

9

新華社特集記事の「一带一路」



出所:新華社記事「開啓新航程 共築絲路夢」

<http://www.xinhuanet.com/fortune/cjzthgj/104.htm> (2015年6月3日アクセス)。

10

例. 「中パ経済回廊」建設の始動

- シルクロード基金を活用
- ウイグル自治区のカシュガルからアラビア海沿岸のグワダルまで3000^キ□
- 第1段階として2017年までにグワダル港と国際空港を建設開発
- 前頁の「新華社ルート」にはない経路
(ルートも「対象国」も実は不明確。これは半分は意図的に)

11

「一帯一路」を巡って割れる見方

- 「65か国、人口44億人」？
「最も決定的かつ壮大な計画」？
(*South China Morning Post*, April 2nd, 2015)
- Great Leap Outward(外向き大躍進)？
(Godement, François, and Agatha Kratz ed., 2015)
- 国際版西部大開発？
(財新網2015年1月30日記事「黄益平：“一帯一路”要重視投資回報」)

12

構想の形成過程

「ブレインの貢献」説

王緝思、「西進」戦略提起(2012年10月17日、環球時報)

林毅夫、新たなマーシャルプランの必要性提起

(2009年以来、たびたび言及)

呉敬璉、「二つの過剰」解消策として国外インフラ建設に言及

出所：曹辛「創造条件也要上的中国“一带一路”」Financial Times中国語版HP(金融時報中文網)、2015年6月8日寄稿記事参照

13

「展望と行動」から読み取れる事

- 公式構想文書の公表
国家発展改革委員会・外交部・商務部
「シルクロード経済ベルトと21世紀海上シルクロードの共同建設を推進する展望と行動」

目次

前言

1. 時代背景
2. 原則
3. フレームワーク
4. 重点プロジェクト
5. 協カメカニズム
6. 中国の地方の参画
7. 中国の行動
8. 美しい未来に向けて

14

文章の特徴

- 混在性

「原則」で国連憲章、内政不干渉と同時に、「市場に決定的作用を發揮させる」との言及

外交方針を確認する一方で、市場化改革にも言及

- 包括性

関連フレームとプロジェクトを総動員

多国間枠組み: 上海協力機構、中国ASEAN会合、アジア太平洋経済協力(APEC)、アジア欧州会合(ASEM)、アジア協力対話(ACD)、アジア信頼醸成会議(CICA)、中国湾岸協力会議戦略対話、中国アラブ協力フォーラム、大メコンデルタ開発協力、中央アジア地域経済協力

博覧会: ボアオアジアフォーラム、中国ASEAN博覧会、中国南アジア博覧会、中国アラブ博覧会、中国西部国際博覧会、中国ロシア博覧会、中国アジア欧州博覧会など

15

要するに何なのか？

- 一帯一路構想の最も根本的な背景

1) 「世界の工場」としての地位の確立
(技術・生産能力の確立)

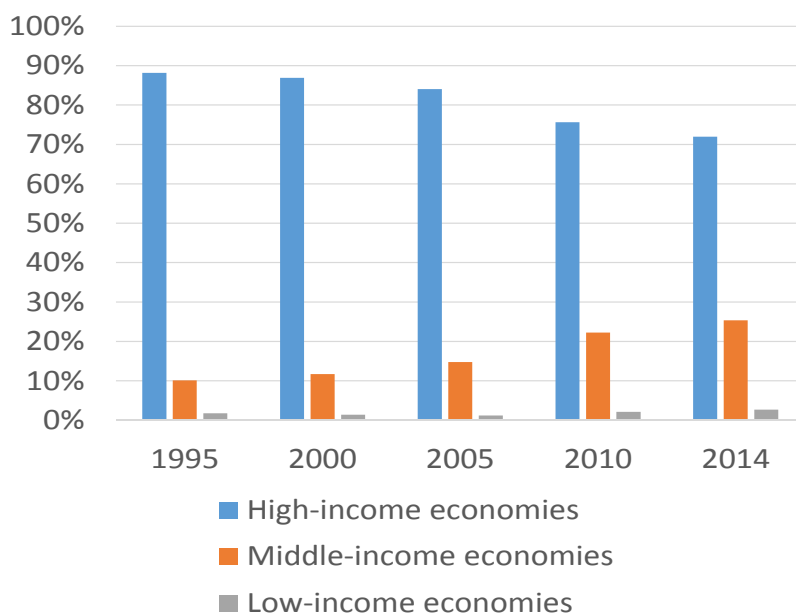
2) 「資本過剰国＝中国」の登場

3) 成長率の低下と新興国市場への期待

16

• 新興国との貿易量の拡大

図 中国の輸出相手国の変化



Note: Income grouping is based on the World Bank's definition.
Source: UNCTAD trade database.

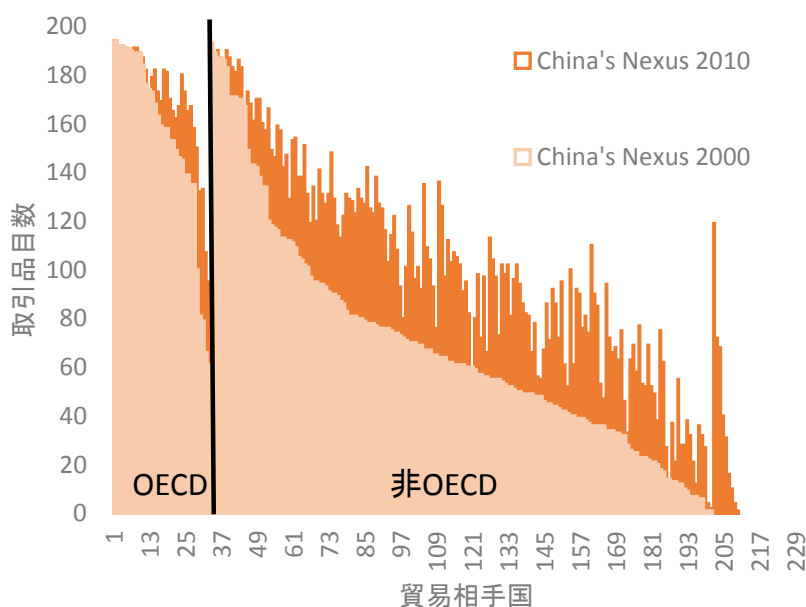
• 中国と世界との貿易取引関係の数はどう変化したのか？

図は横軸に国、縦軸にその国との取引品目の数を並べたもの

(横軸は世界237カ国。縦軸は貿易財97品目(HS2桁)レベルで輸出しているか、輸入しているかをカウント。)

⇒2000年と2010年の結果を比較すると、**中国は2000年代に非OECD諸国と取引品目を拡大**

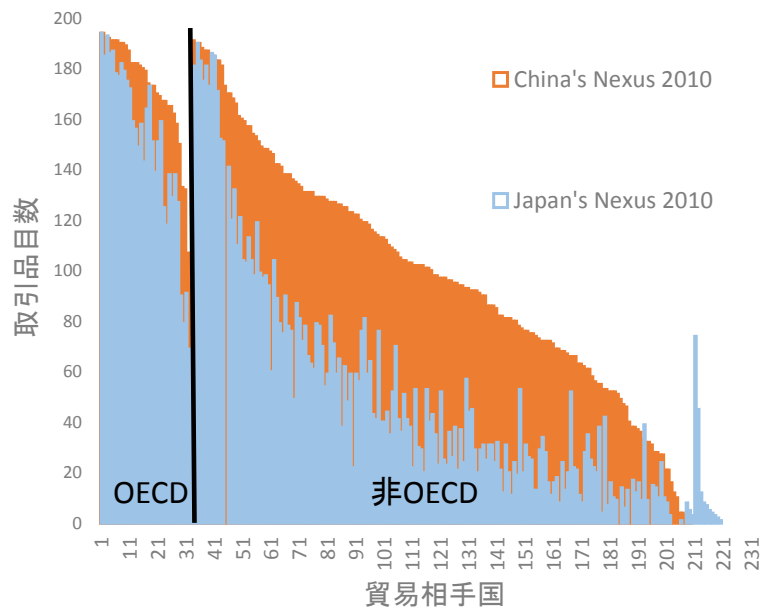
図 2000年代の中国貿易マトリックスの深化



出所) UN Comtradeデータより作成。

- 2010年の日本と中国を比較
 - ⇒ OECD諸国との関係に関しては、日中の差は小さい
 - ⇒ 中国は非OECD諸国と幅広い品目で取引関係を構築
 - 一帯一路は、中国・新興国全般との関係強化を目指す構想と捉えたほうが良いのでは？

図 中国と日本の貿易マトリックスの差(2010年)



注) 補足1を参照。出所) UN Comtradeデータより作成。

事例報告

—インドネシア、カザフ、香港—

- インドネシア
 - ASEANの拠点としてのインドネシアへの期待
- カザフスタン
 - 陸路のチャイナランドブリッジを誰がつくるか？
- 香港
 - 一帯一路を誰がファイナンスするのか？

インドネシア

「境外経貿合作区」の事例

- 対外投資促進政策(「走出去」)の一環として
2008年から始動

国家開発銀行から建設投資資金として優遇
融資が与えられる

- 「展望と行動」にもその役割明記された
2015年1月までに50か国118か所まで増加
うち、シルクロード経済ベルト地域に35か所
海上シルクロード地域に42か所

21

- インドネシアの事例

「中国インドネシア経貿合作区」、ジャカルタ
近郊にて2008年開発開始

中国側開発主体は広西省農耕局。現地財
閥のシマルナスグループから土地使用権購入

22

写真. 中国インドネシア経貿合作区有限公司所有のレンタル工場



2014年8月筆者撮影。 23

写真. 中国インドネシア経貿合作区
第二期建設予定地



2014年8月筆者撮影。 24

インドネシアの事例からの示唆

- 地方政府の一部門が開発主体
他の合作区では民営企業が開発主体の例が多いものの、これまで主に国内での展開してきた地方政府間の競争が国外に広がる可能性も？
- 中国企業以外にも団地に入居
大陸中国企業は団地進出企業24社のうちの9社。現場の誘致では「どこの国の企業でも良い。日本企業は優秀なので歓迎」。末端ではまさに市場メカニズムでの運用。

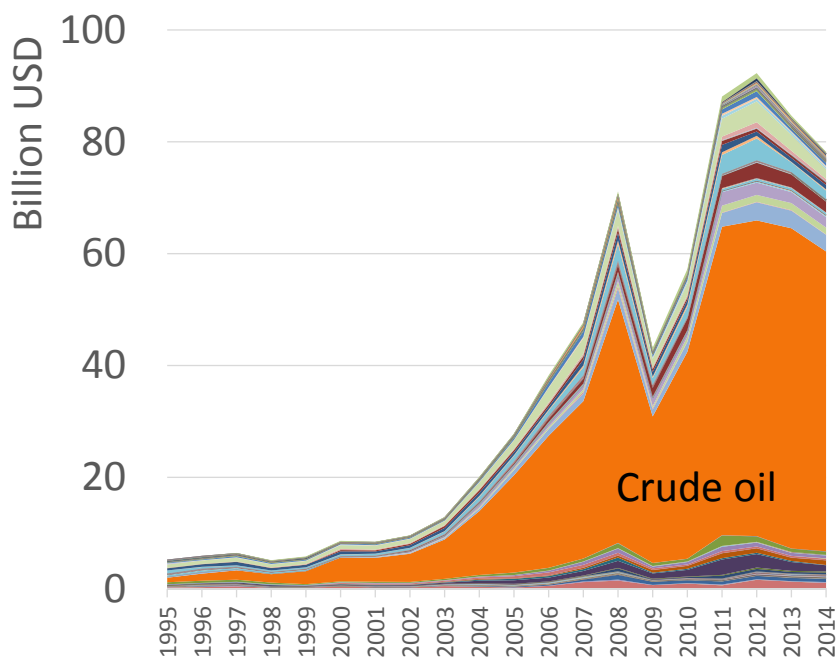
25

カザフスタンの事例

- 2016年2月22日-3月5日に中華人民共和国・ウイグル自治区とカザフスタン共和国を訪問
- 低迷する経済
原油価格の下落が経済を直撃
(資料: MUFGアルマティ資料)
- それでも絡み合う2つの構想
中国「一帯一路」とカザフ「光明の道」
(資料: 大使館資料、Astana Times 記事、地図)

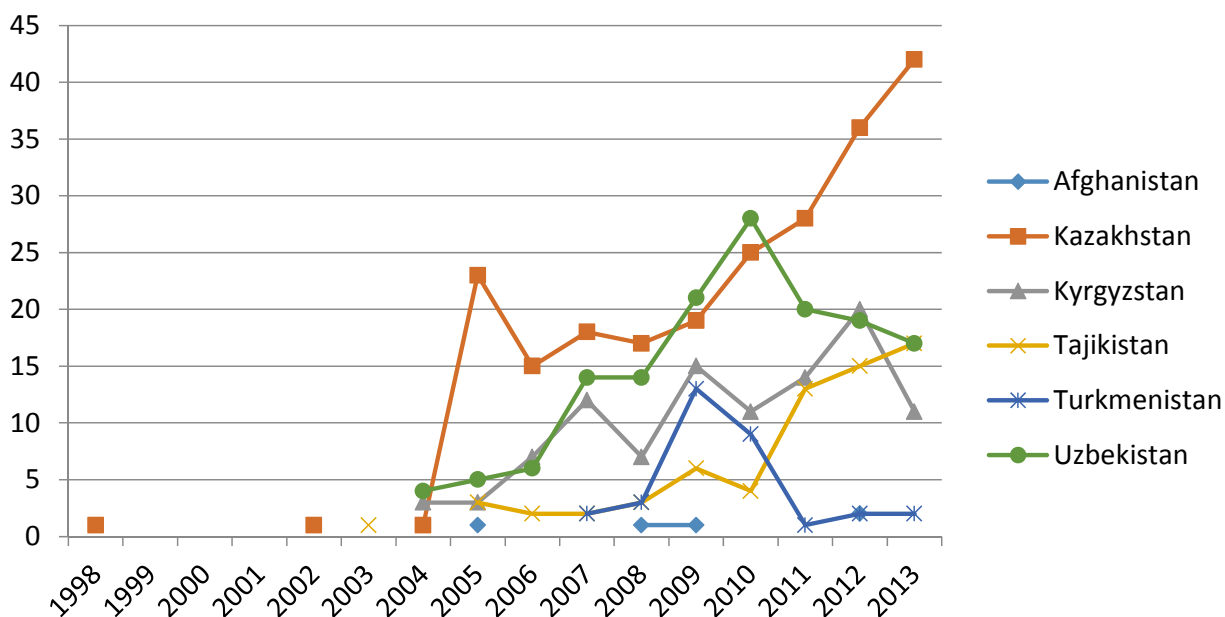
26

Figure Kazakhstan's Export Composition (1995-2014)



注: 255品目のうち、最大品目が原油。2013年に輸出の68%を占めた。
出所: UNCTADデータベース。

図 中国企業の中央アジア6か国への進出数



注: 企業数は累計ではなく、商務部の認可得た毎年の進出数。
出所: Marukawa, Ito, and Zhang(2013)China's Outward Investment Data (University of Tokyo)の個票データより作成。

カザフスタン「光明の道」政策と「一帯一路」

- 危機に瀕するカザフスタン経済
原油価格がバレル100ドル時代から40ドルへ
輸出減少、財政歳入半減、失業圧力、成長率低下
- 危機対応経済政策としての「光明の道(ヌルル・ジョル)」
2014年11月ナゼルバエフ大統領が提起(習近平訪問の1年後)
石油輸出で貯めた基金を使ってインフラ投資、中小企業支援
現地でも、中国側でも「一帯一路」と「光明の道」の連動をア
ピール

29

Kazakh Rail's investment to Lianyung port(連雲港), Jiangsu, China

- Kazakhstan Railways Company
Large state-owned company
- Signed 100 million USD investment to Liunyun port in
Sep 2013, when Xi Jinping visited Kazakhstan
- 200,000 containers have been circulated in 2015
(64,000 in 2014)
(Source: Interview at the Kazakhstan Railways Company,
Astana)

30

Kazakhstan Railways' presentation material



Source: Presentation material entitled "Kazakhstan on the way to developing Eurasian transport and logistic hub: Creating new trade logistic solutions," obtained at the Kazakhstan Railways, Astana, Kazakhstan.

31

香港のIFFOの動き

- 地盤沈下を危惧する香港
- 金融都市として、国内は上海、深圳、国外はシンガポール、ロンドンとの競争の激化
- 一帯一路を巡って、国際機関AIIBと国策ファンドSF以外の分野で、誰がファイナンスするのか？

32

IFFO

(Infrastructure Financing
Facilitation Office)

香港金融監督局が主導して設置したプラットフォーム

アジア各国の金融機関がメンバーとなり、情報交換を
主旨

シンジケートローンまでは直接はやらないらしい

背景にシンガポールへの警戒感

33

小括

- 「一帯一路」をどう見るか

長期的な中国のニーズ、アジアのニーズに対応しようとしていると考えられる

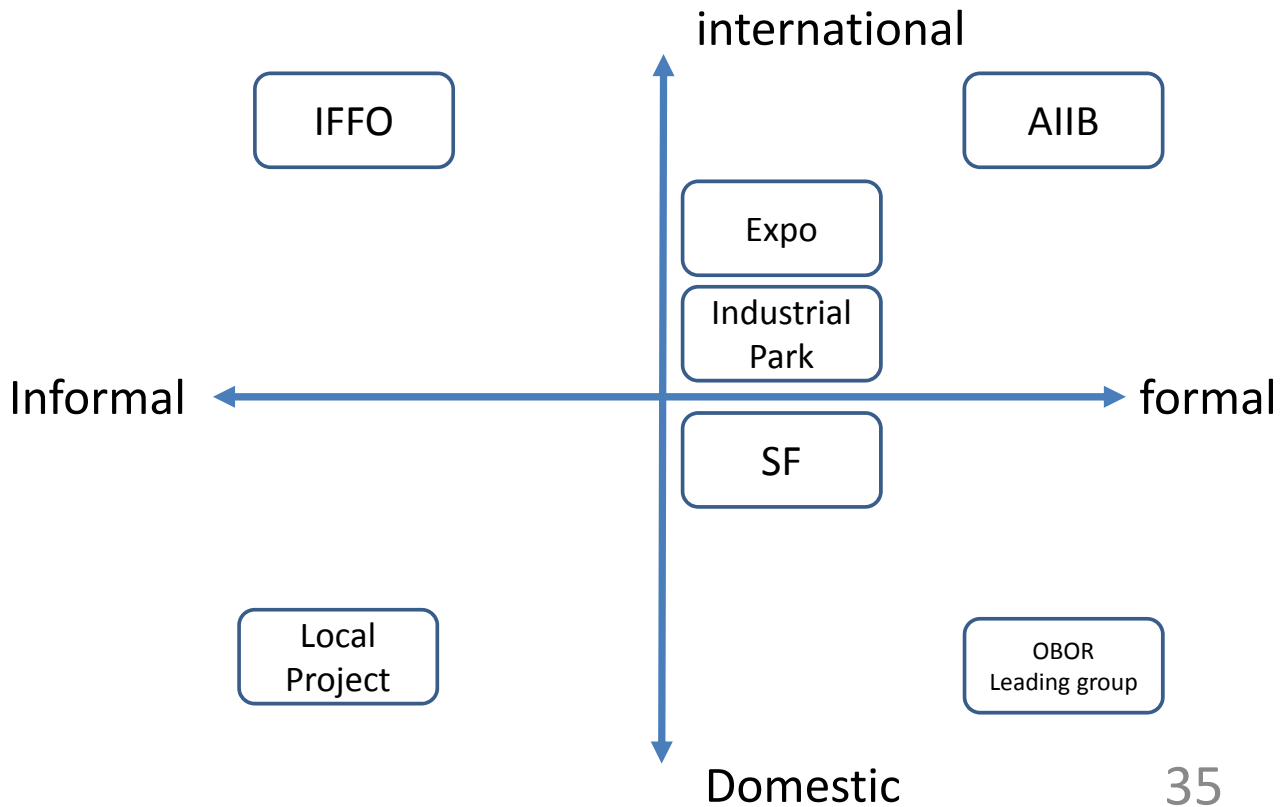
本質的には、対外的には中国と新興国の関係強化を目指す構想（「中国－新興国ネクサス」の強化）

かなり多様なプロジェクトや機関を包む、大きな風呂敷としての「一帯一路」

カザフ、香港を例に見ると、対象地域も能動的に「一帯一路」を活用しようとしている

34

• 半制度的フレームワークとしての「一帯一路」



参考文献

※日本語

- 温鉄軍研究グループ(2015)「中国は世界秩序を変えうるか 陸と海をつなぐ「一帯一路」構想の一環としてのAIIB」『世界』2015年6月号(第870号)、158-170頁。
- 加藤弘之・渡辺真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国 経済篇 国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- 関志雄(2015)「動き出した「一帯一路」構想－中国版マーシャル・プランの実現に向けて－」RIETI HP 中国経済新論、2015年3月4日記事。
- 国務院新聞弁公室・中国共産党中央文献研究室・中国外文出版發行事業局編(2014)『習近平 国政運営を語る』外聞出版社有限責任公司。
- 篠田邦彦(2015)「新シルクロード(一帯一路)構想とアジアインフラ投資銀行(AIIB)－インフラ整備や産業振興を通じた中国の広域経済開発戦略－」『アジア研ワールドトレンド』2015年5月号、37-44頁。
- 白石隆・ハウ、カロライン(2012)『中国は東アジアをどう変えるか 21世紀の新天地システム』中央公論新社。
- 津上俊哉(2015)「「一帯一路」構想に浮かれる中国」、『ハフィントンポスト』2015年3月20日記事。
- ヤーコブソン, リンダ & ノックス, ディーン(2011)『中国の新しい対外政策－誰がどのように決定しているのか』岩波書店。
- 渡辺紫乃(2015)「中国のシルクロード経済圏構想の実態と背景」『東亜』2015年3月号(573号)、30-38頁。

※中国語

- 国家發展改革委員会・外交部・商務部(2015)『推進共建絲綢之路經濟帶和21世紀海上絲綢之路的願景与行動』2015年3月、外文出版社有限責任公司。(英語版、“Vision and Actions on Jointly Building Silk Road Economic Belt and 21st-Century Maritime Silk Road”は新華社通信HPにて閲覧可能：http://news.xinhuanet.com/english/china/2015-03/28/c_134105858.htm)
- 高虎城(2014)「深化經貿合作 共創新的輝煌——“一帶一路”戰略構建經貿合作新格局」『人民日報』、2014年7月2日記事。
- 李向陽(2015)『“一帶一路”：定位、內涵及需要優先处理的關係』社会科学文献出版社。
- 王金波(2015)『“一帶一路”建設与東盟地区的自由貿易区安排』社会科学文献出版社。
- 王玉主(2015)『“一帶一路”与亞洲一体化模式重構』社会科学文献出版社。
- 趙磊(2015)「地方政府是推進一帶一路的關鍵力量」『新京報』2015年3月10日記事。

37

※英文

- Brugier, Camille. (2014)“China’s way: the new Silk Road,” *Brief Issue*, European Union Institute for Security Studies, May 2014.
- Chan, Jay. (2015) “‘One belt, one road’ initiative will define China’s role as a world leader,” *South China Morning Post*, April 2nd, 2015.
- Cheng, Shuaihua Wallace. (2015) “China’s New Silk Road: Implication for the US,” *YALEGLOBAL ONLINE*, May 28th, 2015.
- Fedorenko, Vladimir. (2013)“The New Silk Road Initiatives in Central Asia,” *Rethink Paper*, No.10, Rethink Institute Washington DC, August 2013.
- Godement, François, and Agatha Kratz ed. (2015)“‘One Belt, One Road’: China’s Great Leap Outward,” *China Analysis* of European Council on Foreign Relations, June 2015.
- Lin, Christina. (2011) “The New Silk Road: China’s Energy Strategy in the Greater Middle East,” *Policy Focus paper No.109*, The Washington Institute for Near East Policy.
- Lin, Justin. (2009) “The Cause and Impact of the Global Financial Crisis: Implications for Developing Countries,” *Event Summary*, The Peterson Institute for International Economics, February 9, 2009.
- Putten, Frans-Paul van der, Minke Meijnders. (2015)“China, Europe and the Maritime Silk Road,” *Clingendael Report*, Clingendael Netherlands Institute of International Relations.
- Stokes, Jacob. (2015)“China’s Road Rules: Beijing Looks West Toward Eurasian Integration” *Foreign Affairs*, June, 2015.
- Sun, Yun. (2013)“March West: China’s Response to the U.S. Rebalancing,” *Brookings Institutes, Blogs*, January 31, 2013 (<http://www.brookings.edu/blogs/up-front/posts/2013/01/31-china-us-sun>).
- The Economist Intelligence Unit(2015)“Prospects and challenges on China’s ‘one belt, one road’: a risk assessment report,” *The Economist Intelligence report*.

38

報告者の関連文献

- 伊藤亜聖(2015a)「中国「一帯一路」の構想と実態—グランドデザインか寄せ集めか?」『東亜』2015年9月号, 30-40頁.
- 伊藤亜聖(2015b)『現代中国の産業集積「世界の工場」とボトムアップ型経済発展』名古屋大学出版会.
- 伊藤亜聖(2016a)「世界金融危機以後の中国広東省経済—NIEs論と「世界の工場」論を超えて」加藤弘之・梶谷懐編『二重の罫を超えて進む中国型資本主義』ミネルヴァ書房所収.
- 伊藤亜聖(2016b)「深圳国際ドローン展覧会(2016)視察報告書」日本UAS産業振興協議会HP掲載(<http://uas-japan.org/report/4795/>).
- 伊藤亜聖, 李卓然, 王敏(2014)「中国におけるイノベーション政策の効果推計: 多層・多ルートの政策体系は機能しているのか?」『社会科学研究』第66巻第1号: 75-106頁.
- 大泉啓一郎・伊藤亜聖(2016)「「一帯一路の中国」と「自由貿易試験区」の中国」『アジア研究ワールドトレンド』249号.
- 末廣昭, 伊藤亜聖, 大泉啓一郎, 助川成也, 宮島良明, 森田英嗣(2014)『南進する中国と東南アジア: 地域の「中国化」』東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点研究シリーズNo.13.
- Tomoo Marukawa, Asei Ito, and Yongqi Zhang ed.(2014) *China's Outward Foreign Investment Data*, 東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点研究シリーズNo.15.
- Asei Ito (2015)“Industrial Agglomeration and Dispersion in China: Spatial Reformation of the “Workshop of the World”,” *China Economic Policy Review*, Vol.3 Number 1: pp.1-29.